

# 市川自然博物館

## 12・1月号

(通巻77号)

## だより

### 鳥V『林のまわりの鳥』 の特集



△今回ご紹介する種類です。スズメを目安に大きさを比べてください。

後列左から：ツグミ、フクロウ、ツミ、モズ

前列左から：シメ、エナガ、トラツグミ、コジュケイ、スズメ

# 鳥V 『林のまわりの鳥』

の特集

林での鳥の観察は冬が最適です。葉の落ちた林では、梢にいる鳥の姿を見つけやすくなります。また、渡ってきたり平地におりてきた種類も多いので、たくさんの鳥を観察することができます。

バードウォッチングを始めるにはいい季節です。

今回は林とその周辺で見られる種類を紹介します。



## ●フクロウ（フクロウ科）

『ごろすけはーはー』『ぼろ着て奉公』などと聞きなされる声は、かつては市内のどこでも聞かれたそうです。今でも市北部では、春先の夕方に鳴き声を聞いたり、ペアでいるのを見ることができます。でも、子育てのための巣は大木のほらにつくるので、適した場所はほとんどありません。巣箱を利用した大町公園の例など、市内での繁殖事例はごくわずかにとどまるものと思われます。（見られる季節：一年中）

## ◁フクロウ

二頭身に、太い脚と翼が付く特徴的なシルエット。

## ●ツミ（ワシタカ科）

ツミはハトよりも小さいですが、小鳥などを捕らえて餌にする猛禽類です。ピョーピョピョと可愛く、また鋭く鳴き、市内の林でも、繁殖行動が見られることもあります。しかし、カラスに邪魔されたりと、なかなか雛が巣立つところまではいかないようです。

（見られる季節：一年中）

## ツミ▷

フクロウ類とともに猛禽類と呼ばれる。

短くて曲がった嘴、鋭い鉤爪を持つ太い脚が特徴。





### ●モズ (モズ科)

大きさはスズメと同じくらいですが、バッタなどの昆虫や小さなカエル、トカゲも捕まえるハンターです。いわゆる「もずのはやにえ」にして、獲物を鉄条網のフェンスなどに突き刺さしているのも見かけます。秋から冬にかけては、高い枝先で縄張り宣言をし、キーキーという鳴き声がとくによく聞かれます。

(見られる季節：一年中)

### ◁モズ

丸い頭に大きな目。止まっている時には、長めの尾を回すようによく動かす。

### ●シメ (アトリ科)

体が太っていて尾が短いので、全体がずんぐりとした印象を受ける種類です。太くて短く頑丈な嘴は、木の実や草の実を割って食べるのに適しています。

市川周辺では、秋に渡ってくる冬鳥です。地上近くよりは、木の高い所にいることが多く、落葉前は見つけづらい鳥です。キチキチッと金属的な声で、鳴きながら飛ぶこともあります。

(見られる季節：冬)



### △シメ

太くて短い嘴に大きめの頭。全体の姿はずんぐりしている。

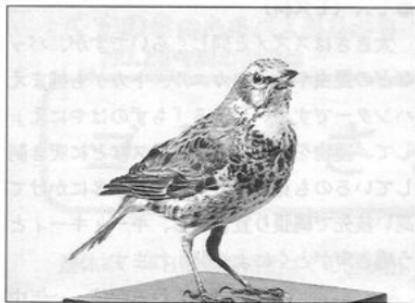


### △エナガ

体と同じくらい長さのある尾と小さな嘴。シルエットが特徴的。

### ●エナガ (エナガ科)

秋から冬にかけてはシジュウカラ、メジロ、コゲラなどと混群をつくって、よく行動しています。チーチーと小さめの鳴き声で、どちらかというと群れの後を追いかけていることが多いようです。体はメジロよりも小さいくらいですが、細くて長い尾を動かしながら、枝の間を活発に飛び移ります。体の色は白と黒に分かれていて、背中と下腹のピンク色がきれいです。(見られる季節：一年中)



△ツグミ

体の色や模様は様々。見分けのポイント  
は眼の上の淡い黄白色の眉模様。

●ツグミ (ヒタキ科)

冬になると姿を見せる渡り鳥で、個体によって色や模様にとっても変化があるため、最初は違う種類かと思ってしまうことがあります。背中の色は、明るい茶色のものからグレーのものまであり、胸の白地に黒点模様も様々です。

林の中で梢に止まっていることもあり  
ますが、見通しの良い草地などで、餌を  
ついばんでいる姿もよく見られます。

(見られる季節：冬)

●トラツグミ (ヒタキ科)

冬に渡ってくるツグミの仲間の中では、  
一番体が大きいのですが、林縁に出て来  
ることもほとんどないので、見つけづら  
い種類です。地上を歩き回って、ミミズ  
などを捕まえます。餌を捜す時には、嘴  
を使ってガサガサと落ち葉をひっくり返  
すので、その音を頼りに姿を捜します。  
春先の夜に、口笛のようなヒョーヒーと  
ちょっと不気味な声で鳴きます。

(見られる季節：冬)



△トラツグミ

体は全体が黄色みの強い褐色。  
黒い斑が散っていてきれい。



△コジュケイ

眼の上から喉、喉の下の青灰色と、  
喉から首の赤茶色が林の中では鮮やか。

●コジュケイ (キジ科)

よく透って大きな鳴き声は「ちょとこ  
い」と聞こえます。ほとんど飛ばずに、  
数羽づつで藪の中を歩いているので、声  
ほどには姿は知られていません。大きき  
はハトぐらいで、喉から首にかけての赤  
茶色と、目の上から喉と喉の下の青灰色  
が林の中では鮮やかな色彩です。

大正時代に中国から移入された種類で  
すが、今ではすっかり日本の林のお馴染  
みです。 (見られる季節：一年中)

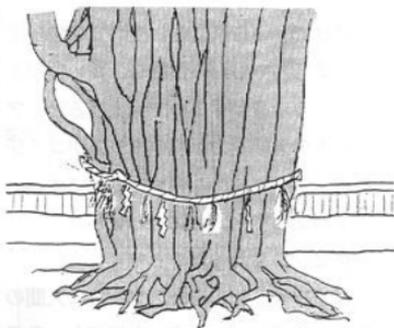


# 街かど自然探訪

おじゃまします!

やわた  
八幡宮・葛飾八幡宮の周辺

八幡の中で、最も木々が多いのが葛飾八幡宮の周辺です。特に、八幡会館の横を抜けて、神殿の右脇にある千本公孫樹(センボンイチョウ)の裏に行くと、クスノキやムクノキの大木が繁っていて、ヒヨドリなどの絶好の休憩場所になっています。またその脇では、コツコツと枝をつついて餌をとるコゲラやシジュウカラも見ることができます。11月中旬になると千本公孫樹や参道のイチョウが黄葉して、きれいな並木道を散策できます。



千本公孫樹  
(国天然記念物)

## RDB レッドデータブック

### 掲載種紹介



## チュウヒ

広々としたアシ原などに生息するタカです。オオタカなど、多くのタカが林で暮らすことを考えると、少し変わった環境で暮らしています。

渡り鳥で、東北地方の一部などを除くと、日本には越冬のために飛来します。東京湾奥部では未利用の埋め立て地に成立したアシ原などをおもに活用していましたが、そういった場所もいまではわずかです。市内では行徳の鳥獣保護区に、毎年、飛来しています。



分類  
鳥類ワシタカ科

ランク  
絶滅危惧Ⅱ類



## ゴミあさるカラス

連休で、4日間道端に生ゴミの袋が出ていませんでした。最終日、買い物帰りにガサガサ音がするので見上げると、アパートの外階段で2羽のカラスがゴミ袋を破っていました。見つけるんですね。ドアが開いて住人と鉢合わせしたら、互いにビックリだったことでしょう。

東京ではカラスを減らすために人間の生活を見直しています。市川でも、身近な鳥との距離や付き合い方を考えないといけませんね。(水垣麻理子さん)



## むかしの市川



このコーナーでは、博物館が1986年に行ったアンケート調査の結果から、むかしの市内の様子を紹介しています。

(原則として回答は原文のまま掲載)

・八幡町の中心に居た為、余り動植物には縁は有りませんでした。300m位南に行きますと田甫が一面と広がり、八幡神社の境内には、樹木が沢山ありましたので多少鳥とか虫などを見ました。又、境内や、原っぱが有りましたので 凧あげ、キャチボール、ケン玉、メン

コ、ベーゴマ廻しなど、充分子供として遊ぶ事が出来ました。(八幡)

・私がか子供の頃は各自治会の軒数も少くバスも葛飾バスと言って現在の旧道だけ通り八幡発浦安を往復し乗する時は手を上げれば何処でも止り乗せてくれました。(妙典)

・現小学校は原っぱで消防の練習場でもあり凧あげ等子供あそび場でした。原や池(釣り)がたくさんあり今日ほどこへ行こうかとまよったものだ。

(市川)

わたしの  
**観察**  
No.59  
**ノート**

◆大町公園より

- ・水辺を網ですくっているとマツモムシがいました(9/14)。観察園では、全然記録がないはず。飛べる水生昆虫は、けっこう飛来しているようです。
- ・オオタカを見ました(9/17)。

金子謙一(自然博物館)

- ・ニオイタデやポントクタデ、アキノウナギツカミ、アメリカセンダングサなど秋の野草が見頃です(9/20)。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・チャドクガを見ました(10/24)。尾端の毛に毒があり触れると痒くなります。

清野元之(自然博物館)

- ・ヨシゴイを見ました(11/7)。ルリビタキ、キビタキ、ジョウビタキも確認できました。
- ・ハンノキの林付近でノウサギの毛玉を発見しました(11/7)。フクロウが落ちていったのでしょうか？

以上 石井信義さん(菅野在住)

◆柏井雑木林より

- ・ジムグリを見ました(10/16)。今年生まれの小さな蛇です。

金子謙一

- ・アカゲラを見ました(10/20)。肉眼でも見られるほどの間近で30分位とどまっていました。

小川 晃(自然博物館)

◆里見公園より

- ・サメビタキを3羽見ました(9/23)。
- ・エゾビタキ、キビタキ、オオルリ、アオバズク、ヤマガラを見ました(9/24)。鳥たちの渡りのピークを迎えているようです。
- ・アオジとシロハラを初認しました(10/20)。

◆堀之内貝塚公園より

- ・クヌギの木にいつものようにフクロウがいました(9/8)。
- ・ツグミを初認しました(10/20)。

◆国府台3丁目の江戸川周辺

- ・河川敷をやさしい声をだしながら飛ぶアオアシシギをみました(10/14)。
- ・ジョウビタキを初認しました(10/20)。
- 以上 根本貴久さん(菅野在住)
- ・坂川河口でカバマダラを見ました(9/6)。

小川 晃

◆京成八幡駅周辺より

- ・上空を飛び廻っているアマツバメを見ました(9/25)。

根本貴久さん

◆妙典少年野球場周辺より

- ・マダラバツタがいました(9/4)。他にもトノサマバツタ、オンバツタ、ショウリョウバツタが見られました。

金子謙一

◎台風15号の直撃にあいましたが、その後は順調な秋の気候でした。



# 行事案内



## 自然観察会

申込が必要です

毎月テーマを変えて、市内各所に出かけます。内容により対象が異なります。

テーマ	対象	日時	場所	受付開始
生き物の冬越し	指定なし	1月13日(日)午前	柏井雑木林	12月15日～
流域観察	一般	2月10日(日)午前	柏井町周辺	1月19日～

### 申し込み方法

往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

## 自然講座

申込は必要ありません

いろいろな自然の話題を紹介する室内講座です。

- 時間 午後6時～8時
- 会場 市民談話室 (国道14号線本八幡駅前交差点角)
- 内容 1月19日(土) 「市川の山野草 トバラ科～アブラナ科」金子謙一  
1月26日(土) 「鱗翅目と蛾の特徴」清野元之  
2月2日(土) 「オオスズメバチの生態」小川晃  
2月9日(土) 「市川地層紹介 市川砂屋」宮橋美弥子

## 散策会 (長田谷津) (柏井雑木林)

申込は必要ありません

ゆっくりと散策しながら、四季それぞれの自然を楽しみます。

- 長田谷津 ・日時 平成14年1月5日(土)、2月2日(土) 午後1時30分～3時  
・集合場所 動植物園券売所前
- 柏井雑木林 ・日時 平成14年1月19日(土)、2月16日(土) 午後1時30分～3時  
・集合場所 市民キャンプ場 管理事務所前

※天候不良の場合は中止、はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせを。

## 野草名札付けのお手伝いを、していただきませんか。

- ・日時 平成14年1月5日(土)、2月2日(土) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入口

※天候不良の場合は中止、はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせを。

## 年末年始の開館日は・・・

年内は12月27日(休)まで  
年始は1月2日(休)から

市立市川自然博物館だより  
第13巻 第5号 (通巻第77号)  
発行日/平成13年12月1日  
編集・発行/市立市川自然博物館  
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地  
☎047(339)0477  
http://www.city.ichikawa.  
chiba.jp/nature/